

科目名	社会学	配当時期	1 年次 前期	講義担当者
時間割表記名	社会学	単位数	1 単位	向井良人
		時間数	30 時間 (15 回)	
事前学習内容				
国内及び海外のニュース記事を読み、医療をめぐって今どのような問いが立つかを考える。				
授業目標				
病気と医療の成り立ちを、人間の行為と相互作用、そして社会構造の側面から多角的に読み解く。そして、私たちが日常の中に病と健康をどのように見出しているのか、「生きづらさ」と「癒し」がどのように作りだされているのかを捉え直す。				
DPとの関連				
DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。				
DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。				
DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。				
授業の流れ				
回	学習内容	方法	備考	
1	社会学の視点：社会的なものと社会学的な問い	講義	テキスト	
2	意味づけとしての病：なにを「病気」として扱うか／近代化と病	講義	テキスト	
3	医療化と脱医療化：社会統制／医学モデルと社会モデル	講義	テキスト	
4	文化現象としての病：素人の知識／多元的医療システム	講義	テキスト	
5	病人役割：病人の権利と義務／病気行動／医師－患者関係	講義	テキスト	
6	行為と演技：ドラマツルギー／儀礼的無関心／役割距離	講義	テキスト	
7	社会調査：社会学のフィールドワーク／シカゴ学派の社会学	講義	テキスト	
8	ラベリングと逸脱：健康という規範／レッテル貼りと逸脱	講義	テキスト	
9	スティグマ：ある徴が「烙印」となるとき	講義	テキスト	
10	国民国家と福祉：国民国家の成立／福祉国家の類型	講義	テキスト	
11	グローバル化と医療：ケア・介護労働と移民	講義	テキスト	
12	医療をめぐる政治：ハンセン病問題／らい予防法／優生保護法	講義	テキスト	
13	優生学と医療：社会ダーウィニズム／先端医療／生命倫理	講義	テキスト	
14	医療専門職：医療における分業／「専門職支配」論	講義	テキスト	
15	レビュー(45 分)：病と社会	講義	テキスト	
16	筆記試験(45 分)	試験		
受講上の注意				評価方法
社会学への習熟とは、社会事象の表面をなぞるのではなく、それを成立させている仕組みに斬り込むスキルを獲得することである。日常に「斬り込む」という知的活動とそこから得られる新たな気づきによって、社会学は生きたものとなる。新聞を読み、病と医療をめぐる行為、相互作用、社会構造について考えをめぐらせ、問いを鍛えること。				筆記試験 70%、 ミニツツペーパー 30%
使用するテキスト				
系統看護学講座 基礎分野 社会学. 医学書院.				
参考文献				
中川輝彦・黒田浩一郎(編著), 2010, 『よくわかる医療社会学』 ミネルヴァ書房.				

